

A08-017 沈からの回復2: 2x~8+の場合

Recovery from Capsize of 2x to 8+

ダブルスカル~エイトは、比較的再乗艇はしやすいが、艇の構造によっては内部の排水が問題となることもある。対処を誤ると、艇に致命的なダメージを与えてしまう。

1 ダブルスカル・なしペア Double/Pair

2人漕ぎの艇では、艇に乗る基本手順はシングルスカルと変わらないが、一人ずつ乗艇する。一人が艇を持ち、一人がそれとは逆サイドから乗ることで、比較的容易に回復できる。

しかし、艇の構造によっては内部の排水が問題となるケースもある。

1.1 静水での転覆(沈)からの回復

静水では艇に復帰できる可能性が十分にある。まず艇を回転・復帰させる際に、できるだけ艇を持ち上げるようにして、内部の水をできるだけ排出する。次に、オールでバランスをとりながら、まず耐久力の弱い漕手が先に乗艇する。

艇を持つ漕手とは逆サイドから乗ることで、容易に回復できる。バランスをとった状態で、残りの漕手も上がる。艇内の水が多い場合は、さらに水を排出する。スポンジか何か水を排出する道具が必要である。

1.2 ラフコンディションでの沈

浸水し、艇内が水で満杯で漕げなくなったときは、まず最初の選択としては、そのままバランスを保ちながら救助を待つことである。完全に沈したら艇が折れる危険も生じる。そのような場合は、艇から降り、水中につかって艇にしがみつくようにする。そして体力を温存し、救助を待つ。救命具を膨らませる。(なお、体力を消耗している漕手がいる場合や、冬季の低水温の場合は、少しでも体を水上に出しておくために、艇のリスクを覚悟の上で、そのまま乗り続ける選択肢もある。)



ダブルスカルではまず逆サイドから一人が乗る。

2 フォア・クワッド・エイト Four-Eight

2.1 静水での沈からの回復

静水では再び艇を復帰できる可能性がある。

2.2 ラフコンディションでの沈

ラフコンディションの中では、一度満杯に浸水したフォアやエイトなどを自力回復するのは、不可能に近い。この場合は、艇が折れないように注意しながら、艇につかまって生命を維持できる状態の維持につとめ、救助を待つ。

特に次のことに注意する。

- ・ お互いが離れず確認できる位置に集まる。一人でいると、

艇から離れたら所在がわからなくなる。誰かが力尽きたときに、なお助けられるかもしれない。例えば前後のキャンバス部分に半分ずつ分かれて集まる。

- ・ ひどく体力を消耗している者がいたら、その者は艇に載せておく。水中での体温の消耗は激しい。
- ・ パニックに注意する。悲鳴はパニックを拡大する。リーダーは冷静に判断し、全員の行動をまとめる。

体力の消耗と岸までの距離を考え、可能と判断したら、バタ足で艇を押し岸に向かう。ただしこれには相当の労力を要する。無理な運動は避ける。岸に向かう風ならば、そのまま待つ。

風が沖に向かって吹くような悪条件では、艇の移動はまず困難で、いたずらに体力を消耗するだけなので避ける。ハルの上に乗るなどして、身体をできるだけ水中から出すことを考える。



沈艇にそのまま乗り続けることは艇に大きな負担を強いる。



浸水したまま乗艇して折れてしまったハル

3 着岸後の処置 After the Landing

着岸後は、クルーはできるだけ早く暖をとるようにする。艇は、まずオールを外し、艇を傾けて回すようにして中の水を排水する。決して力任せに持ち上げようとしてはいけない。持ち上げたとすると、艇を折ってしまう危険が大きい。



浸水した艇はそのまま持ち上げてはいけない。